

マネーplus+

お金とくらしの 情報通信

2024.JUN
vol.14

JAから、相続や資産形成・資産運用などに役立つ
基礎知識やトピックスをお届けします。

Column
耳寄り情報

Message



お金に対する漠然とした不安は
少しでも減らしたいもの。
そこで生涯かかる費用を見える化し、
早いうちから準備をしてみませんか？
必要な金額が明確になると、
節約や資産運用などの対策ができ、
心にも余裕が生まれます。



©よりぞう

＼資産運用の専門家がお届けします／

fpフェアリンク㈱
代表取締役

白浜 仁子

Shirahama Tomoko

さまざまなライフイベント、そのために必要なお金とは？

人生には、さまざまなライフイベントがあります。それを叶えるためにはお金が必要なことも多々……。ここでは、人生の三大資金である教育、住宅、老後の資金や、結婚費用について考えてみましょう。

現役世代に必要なお金

▶ 教育費

お子様がいらっしゃる場合は、教育費がかかりますが、教育方針やお子様の希望によって金額は大きく異なります。幼稚園～大学まですべて公立に通う場合の平均は約793万円ですが、すべて私立の場合は約2,292万円です。特に、大学の費用は、公立を希望していても私立を前提に資金計画を立てることをおすすめします。国公立大学の費用は、年間約54万円、私立大学は、文系で約95万円、理系で約131万円となっており、私立になった場合の負担がかなり大きくなるからです。さらに、自宅外で暮らす場合は生活費も別途必要となります。教育費の準備は、早めに計画を立ててみるとよいでしょう。

▶ 住宅購入費

住宅購入時の頭金の平均は、一戸建て（新築）で約

1,160万円、分譲マンションで約2,259万円と意外と高いようです。これは、頭金を多く出したケースが平均を引き上げていることが考えられます。とはいえ、最近は、資材価格の高騰などで住宅価格は上昇しています。頭金をある程度準備できれば住宅ローンの返済が抑えられ、月々のやりくりが楽になるでしょう。

▶ 結婚費用

結婚する際にかかる費用の平均は、結婚指輪・結婚式などで約416万円です。結婚は、地域による習慣の違いや、結婚観の違いで予算にも幅があります。どのくらいお金をかけたいのかイメージしておくとうやそです。

年金受給世代に必要なお金

▶ 老後資金

医療費や介護費は、社会保障である程度守られているため、過度な心配は不要です。しかし、年金だけでやり繰りするのには難しいこともあるでしょう。現役のうちから未来の自分に向けた貯蓄は行いたいものです。老後も長く自宅で過ごしたい場合は、バリアフリーなどのリフォーム資金の準備も計画しておくとういでしょう。

現役世代に必要なお金

年金受給世代に必要なお金

教育費

住宅購入費

結婚費用

老後資金（月額）

すべて
公立

すべて
私立

一戸建て
（新築）

分譲
マンション

結婚指輪・
結婚式など

最低日常
生活費

ゆとりある
老後の生活費

約793万円

約2,292万円

約1,160万円

約2,259万円

約416万円

約22万円

約36万円

※文部科学省、国土交通省、リクルート総研資料よりJAバンク概算